

双葉通信【第 264 回】(被災地を行く№33) “ふくしまの切り捨ては許さない”

2025 年 12 月 2 日 上 田 勉

老舗喫茶店「珈琲亭いこい」12 月 24 日閉店 55 年の歴史に幕 ファンからは惜しむ声
(福島県南相馬市)

「24 日に閉店する「珈琲亭いこい」

福島県南相馬市原町区の J R 原ノ町駅前で営まれてきた老舗喫茶店「珈琲亭いこい」は 12 月 24 日で閉店し、55 年の歴史に幕を下ろす。「青春時代に通った」「変わらない味が好きだった」…とファンからは惜しむ声が寄せられている。

同店は 1970 (昭和 45) 年 10 月にオープンした。石炭輸送船の航海士だった吉田至巴さん (85) が、長女が産まれたのをきっかけに「家族と一緒に過ごす時間を大切にしたい」と妻のミチ子さん (82) と共に始めた。至巴さんは仙台市のコーヒー卸問屋に通ってコーヒーの知識からメニュー開発、経営のノウハウなどを学び開業した。

駅前の立地の良さに加え、当時はまだ珍しかったスパゲティやピザなどの料理が好評で、店は繁盛した。手狭になったため開店から 5 年ほどで、隣の店舗に移転した。レンガ造り風の店内は半世紀の間、ほぼ変わらない。落ち着いた雰囲気で、地元の住民や駅を利用する高校生、ビジネスマンら誰からも、店名通り“いこい”的場として愛された。

東京電力福島第 1 原発事故直後、1 カ月休んだが、それ以外は定休日以外は休まず、店を開けてきた。「時間はしっかりと守る」という至巴さんの航海士時代からの信条を貫いてきた。

しかし、高齢に伴い至巴さんが体調を崩し今年 11 月に入院。ミチ子さんと従業員で続けてきたが、経営を続けるのが困難になり、店じまいを決めた。

店内には思い出を寄せるノートが置かれている。「50 年通い続けてきた。さみしい」「高校生のころから友人、家族と一緒に来た大切な場所」「すてきな時間ありがとうございました」とのメッセージが記されている。

ミチ子さんは「大勢のお客さんに支えられ続けることができた。閉店は残念だが、やり遂げたという思いもある」と語り、客を迎えていた。(「福島民報」12/9(火) 18:15 配信)

「いこい」には、毎月「三浦綾子読書会」の後、皆で行ってワイワイガヤガヤ語り明かしました。

冷やし中華とクリーム(フルーツ)あん蜜もおいしかったです。

また一つ、昔ながらの喫茶店が消えてしまいます。



【「珈琲亭いこい」（南相馬市原町区）】（2025年12月20撮影日）



【「珈琲亭いこい」（南相馬市原町区）】（2025年12月20撮影日）